

「なぜ疑ったのか」 マタイによる福音書 14:22-33

「それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、」

2匹の魚と五つのパンの奇跡後ですから、夕暮れ時と思われる。ガリラヤ湖は地形的に夕方から強風が吹くことが多いのです。それは漁師であった弟子たちは十分承知していたでしょう。しかしイエス様は、彼らを強いて舟に乗せ送り出しました。

①弟子たちは強風の中でも漕ぎ続けた。

彼らはおよそ十時間以上も向かい風の中こぎつつけましたが、湖の真ん中くらいまでしか進みませんでした。常識から考えれば、そこまで苦勞をしなくても、引き返せば追い風になり、元の場所に戻って風が止んでから舟を出せば、効率も良く、疲れもせずに翌朝向こう岸に簡単に行くことができたでしょう。当然彼らにはその選択肢はあったでしょう。ではなぜ、そうしなかったのでしょうか。答えは一つです。イエス様が「向こう岸に行きなさい」と言われたからです。弟子たちは欠点もあり失敗も多くしました。しかし彼らは、何よりもイエス様の弟子であったのです。弟子は師の言葉に従います。もし彼らが「賢い」やり方を選んで、引き返していたら、イエス様が湖の上を歩く姿は目撃できず、ペテロも自身が水の上を歩くということは経験できませんでした。イエス様がしなさいと言われたことに対して、経験や常識よりも、従うことを選んだからこそ見ることができたのです。これは私たちにとっても大切なことです。私たちもイエス様の弟子なのです。神様の言葉に「アーメン」と従う時、私たちは神の栄光を拝するのです。

「弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、『幽霊だ』と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。イエスはすぐ彼らに話しかけられた。『安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。』」

実は、「わたしだ」とは、原文ではエゴーエイミ(英語では「I am」)で、これは、旧約聖書でモーセに現れた神が、その名を尋ねられて「わたしはある」と答えられもので、ここでイエス様は「わたしは神だ。恐れることはない。」と言われ

たということです。

②ペテロは舟から踏み出した。

「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」

彼は、イエス様が神であるなら、自分を歩かせてくださる、そう信じて一歩踏み出しました。常識はずれの行動でしょう。しかし「イエス様なら」という信仰をもって一歩踏み出すなら、私たちもペテロと同じ、奇跡を体験できるのです。非常識が良いと言っているのではありません。常識ではどうすることもできないことでも、神が働かれるなら、それを越えることが起こるのです。

③ペテロは強風と波が怖くなった。

「強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、『主よ、助けてください』と叫んだ。イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、『信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか』と言われた。」

ペテロは、イエス様を疑ったというより、怖くなっただけです。しかしイエス様は、彼がイエス様だけを見続けなかったということに対して、そう言われたのです。イエス様に信頼しないということは、イエス様を疑うことになるのです。イエス様は、彼が途中で怖くなることは最初からご存知だったでしょう。しかしイエス様は彼を招かれました。私たちだって、スタートは神様に信頼して勇ましく一歩踏み出しても、途中で壁にぶつかって挫折しそうになることがあります。でもそういう中でも、わたしを導き守ってくださるイエス様から目を離さないことです。イエス様は沈みかけたペテロの手を、すぐにつかんで助けられました。そして2人で舟に乗り込んだとありますから、再びペテロは湖の上をイエス様と一緒に歩いて舟に戻ったのです。

「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。」(ヘブル 12:2 新改訳)

私たちの周りには様々なことが起こってきます。しかしその一つ一つの中に、イエス様の臨在を認めていくなれば、神様の祝福が満ち溢れ、神様の栄光を拝することができるのです。

